

令和3年度 西都市立都於郡小学校 学校評価（教職員・評議員一覧）

【学校の教育目標】 「夢や希望をもち、自己実現をめざし、たくましく生き抜く子どもの育成」
 【本年度重点目標】 ○確かな学力の向上 ○明るく楽しい学校生活の実現 ○心身の健康及び安全教育の充実 ○特別支援教育の充実

4段階評価 4：達成 3：ほぼ達成 2：不十分 1：改善を要する

評価項目	評価指標	成果 (○)・課題 (●)・改善策 (◎) ※文頭に記号をつけて記述する	教職員評価	関係者評価	評議員コメント
確かな学力の向上	主体的に学ぶ態度の育成を図り、テスト平均90点以上、全国学力調査正答率・全国、県、市平均以上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習方法の工夫に努めることにより、学習習慣や意欲は向上し、学び合いはできていた。 ○ 全国学力調査前に、過去問に取り組み、記述式の問題にどのように取り組めばよいかを指導した。その結果、記述式の問題において無答の児童がいなかった。また、結果も全国平均以上をとることができていた。 ○ 主体的に学ぶ態度について、ペア学習・グループ学習、ICTを使った学習で向上を図った。 ● 学習内容の定着という点で、継続指導の在り方を工夫していく必要がある。 ● 主体的に学ぶ態度の育成に関して、主体性が見られてきたが、確かな学力とは何なのか再度確認していきたい。 ◎ 平均90点以上を目指して、習熟時間の確保や個別指導の充実を図り、学力向上を目指したい。 ◎ タブレット端末等、ICTをうまく活用して、児童一人一人の主体性・対話力・表現力等を伸ばしたい。 	2.9	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都於郡中の生徒の学力は、児湯・西都管内の中でも高いと聞いている。小学校の先生方が土台を作ってくれているからだ考える。引き続き指導をお願いしたい。 ○ 全国テストで無答がなかったり、全国平均を上回ったりしたことは、学力向上を示していると思われ、素晴らしいことである。 ○ 先生方が学習方法を工夫され、子どもたちに、学習習慣や意欲を向上させていると思う。(学力が上がっていると伺っている) ○ 学力向上は、最も大切な分野ではあるが、学校も子どもたちもよく頑張っていると思う。一方で、ICT活用の授業がうまくいっているのか、また、確かな学力とは何なのか、子どもたちに主体性が見られるようになってきたとはどのようなことなのか等、明確になるとよいと思う。 ○ もう少し、探究型授業の導入や構造的な板書の工夫が必要。 ○ 学力の土台となる基礎・基本を育てる自学ノートの取組を強化されてもよいと思う。 ○ 図書室の利用は、間違いなく読書意欲の向上につながると思う。学習内容をこなすのが精いっぱいとのことであるが、やはり習慣付けをするための対応策は、一考を要すると思う。 ○ 図書室の利用(読書)には、是非、力を入れてもらい、読書感想文の書き方など指導していただくと、今後の中学、高校入試にもつながっていくと思われる。
	各学級、週1回以上の図書室利用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べ学習や読書活動において、図書利用を積極的に呼びかけて習慣化を図ってきた。 ○ 図書室利用とともに、読書意欲が向上した。 ● 週1回の利用はできなかった。特に各学期の後半に行っていない。 ● 学習内容をこなすことに精一杯で、図書室利用は個人任せになった。 ◎ 意識的に図書室利用を計画するように心がける。 ◎ 朝の時間を活用して、週に1回は利用するようにし、読書推進を図る。 			
	外部講師の積極的活用と振り返りの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語活動のクリスマス先生の来校日に合わせ、英会話やヒアリング、パフォーマンステストを計画し、児童の学力向上を目指した。 ○ 外国語の授業・非行防止教室・薬物乱用防止教室・味覚の授業・栄養教諭による授業・福祉体験活動・食育及び地産地消推進の授業・租税教室・国際理解講座などで、外部講師を積極的に活用している。 ● コロナの影響もあり、限られた外部講師の活用にとどまったところもあった。 ◎ 偏食の児童がやや多いので、3学期に栄養教諭の先生のお力をお借りして食育に取り組みたい。 			
明るく楽しい学校生活の実現	あいさつ・返事、「早寝・早起き・朝ごはん」の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活カードを活用して日々の望ましい生活習慣のチェックを続け、指導や賞賛することで意識は高まっていた。 ○ 教師側から積極的に挨拶し続けたことで、学級の児童も「自ら先に挨拶する」ということを意識するようになり、実践していた。 ○ 月に一度行う「さわやかチェック」により、学級担任等と連携して基本的な生活習慣の定着を図っている。1・2学期、「早寝・早起き・朝ごはん」は90%以上の児童ができていた結果だった。 ● あいさつや返事の声が全体的に小さいように感じる。もっとあいさつの響き合う学校を目指して、全体で力を入れる必要がある。 ● 「早寝・早起き・朝ごはん」の定着については、1学期の学校保健委員会で努力事項として確認し、委員の保護者を中心に取り組まれている。しかし、全保護者による共通実践には至っておらず、継続的な呼び掛け・実践が必要である。 ◎ 上級生が中心となって元気な挨拶を行うようにし、全校にも広めていきたい。言葉での返事をしっかりできるように、その都度指導していきたい。 	3.0	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつの個人差はあるが、元気よくしてくれる子どもも多くみられる。 ○ 家庭との連携が不可欠と思うので、情報共有や取組活動の充実を図る。 ○ 昔に比べて、日常生活で社会のルールや常識を覚える体験が少ないと思うので、是非力を入れていただきたい。いじめ根絶にもつながると思う。 ○ あいさつは基本だと思う。自分から進んであいさつができるように、学校だけでなく、家庭でも引き続き教えていただきたい。 ○ 時々、登校時に見守りで立っているが、自分から先に挨拶する子は少なく、返すあいさつの声も小さい(目も合わない)子もいる。
	道徳授業の完全実施、規範意識・自主性・社会性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳の時間に学習したことを、学校生活に活かせるような声掛けをしたり、保護者にお知らせしたりして意識が高まるようにした。 ● 学級活動や行事を通して、コミュニケーション能力を向上させ、さらに社会性を身に付けさせたい。 ◎ 授業は計画通り実施できているが、資料の効果的な扱いや考え議論する道徳学習のあり方など、指導の工夫の手立てを学び、児童の道徳性の向上を図りたい。 			
	いじめの根絶につながる組織的・早期対応の実践	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートや教育相談を実施し、情報の共有や指導の連携を図ることができた。相談・指導後の児童の様子も把握し続け、安心して学校生活が過ごせるように努めていきたい。 ○ 悪口やいたずらなどいじめにつながりやすい事例がいくつかあったが、すぐに対応できた。また、関係職員と連絡を取り合い、組織的に対応できた。 ○ 定期に実施されている「すこやか会議」で、事例報告・状況報告を行い、共通理解及び早期対応が為されている。 ● いじめに該当するような事案が起きた。児童双方に指導支援を行ったが、継続して見守っていく必要がある。 			

心身の健康及び安全教育の充実	体力テスト県平均以上の達成と健康的な生活の実践	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康チェックカードや、家庭での睡眠時間の確保を意識した生活スケジュール計画表の活用により、日々の健康を自ら意識して過ごす習慣が身に付いてきた。 ● コロナの感染防止の影響で、十分な体力向上のための取り組みが十分とは言えない。感染防止対応を行いつつ、なわとびやスポーツなど体力向上をめざしたい。 ◎ 新体力テストの結果より「握力、上体起こし、立ち幅跳び」が本校の課題となっている。体育科指導および学校生活の中で取り組めることから体力向上を図っていききたい。 	2. 8	3. 0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭との連携が不可欠である。情報共有が必要である。 ○ 「自ら考える力」が無いと、遊びや生活の中でも危険予測や回避能力は身に付かないので、「こんな時はどうする？」といつも子どもに考えさせる言葉掛けがよいのではないかなと思う。 ○ 車で登校する子が多いように思う。毎日歩いて登校することで、自然と体力もついて、健康につながると思うので、親への呼びかけをお願いしたい。 ○ 健全な精神は、健全なる身体に宿るといふ。食習慣、運動に励んでもらいたいと思う。 ○ 学校では、休み時間や体育の時間に元気に外で遊んだり、運動したりしているが、学校が休みの時は、外で遊んでいる子どもを見かけることが少ない。
	避難時の「お・は・し・も」の完全定着と危険予測・回避能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 避難訓練とワークシートを使っての振り返りができたため、訓練を通して何を身に付けなければならないのかを児童が理解できていた。 ○ 児童が保健室に来室した際は、丁寧に問診を行いながら、どうしてケガをしてしまったのか、どうすれば回避できたのかを児童自身にも考えさせるようにしている。 ● 日常の危険予測・回避については、自分の無意識の行動が今後どのような事態に繋がるかという予測ができていない児童が多い。衝動的に無意識に行動してしまう児童が多い。日常的に継続的に「行動と結果」について触れていく必要がある。 			
	望ましい食習慣の形成と家庭との連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 好き嫌いが見られるが、家庭と連携しながら望ましい食の在り方を目指して指導している。また、参観日の懇談時に、偏食、少食、遅食、マナーなどについて話をした。 ○ 食育の出前授業を計画したり、家庭へ学校での取組を呼びかけたりすることで、食への関心や望ましい食習慣の連携ができていく。 ○ 学級活動等で積極的に栄養教諭を呼び、食育の充実を図っている。また、今年度2回目の学校保健委員会では、基本的な生活習慣の確立に向けた観点から食育、食習慣に関する講話をしていただき、朝ごはんをはじめ、望ましい食習慣について保護者とともに確認できるよい機会となった。 ◎ 家庭と連携し、少しずつ改善していききたい。 			
特別支援教育の充実	共通理解による支援・指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援に関する内容は、その都度、関係の先生方に相談し、よりよい支援のあり方を探りながら指導にあたっている。 ○ 校内支援委員会及び「すこやか会議」において、児童の特性や事例・状況等の確認・対策検討などが十分にできている。 ◎ 関係機関との連携を十分図り、支援の仕方の共通理解を十分図りたい。 	3. 0	3. 0	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまで同様に、多様な対応をお願いしたい。 ○ いろんな場面において「支援を要する子ども」が増えてきていると思うが、それに気が付かない親も多いと思う。(他児をみる機会が少ないため) また、気付いても、どうしてよいか分からず、見て見ぬふりをしていることもあるかと思う。低学年時から、保護者と対話をし、信頼関係を築いて、相談しやすい環境を整えていただけたらと思う。 ○ どちらか一方的ではなく、先生方と保護者が何でも言い合えるよう、普段から信頼関係を築いてもらいたい。
	保護者が相談しやすい環境の構築と話合いの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級通信や生活記録カード、電話や面談の機会を活用し、保護者が抱える悩みの解決に向けて丁寧に対応してきた。今後も信頼関係を大切に、充実した話合いにしていききたい。 ● 不登校児童の保護者に対して、複数の教員が関わるため、情報の共有が教師間で図られていなかったり、保護者に十分な情報が伝わっていなかったりして、誤解を招いている場面があった。 ◎ 校内での情報共有、保護者への細やかな情報伝達に心がけていききたい。 			
	児童観察・諸検査の実施、フィードバックの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不登校児童を医療機関につなげ、WISC検査を行ってもらうことができた。その結果を学習指導に生かすことができた。 			